

2022 Jun

No.599

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療 患者の人権と意思を尊重します	診療3本柱 がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります	完結型医療 地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います	地域包括ケア 地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します	社会貢献 災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います	医療人育成 地域医療に貢献できる医療人の育成を行います
----------------------------------	--	--	---	---	---------------------------------------

当院での認知症診断に有用な核医学検査のご紹介

認知症とは、一般的に脳の病気や障害などの様々な要因により、認知機能が低下し、日常生活に支障が出てくる状態のことを言います。日本では、高齢化社会に伴い、認知症患者数が年々増加傾向にあると言われています。厚生労働省によると、2025年には約700万人(高齢者の5人に1人)が認知症になると予想されています。

認知症には血管性認知症やアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など様々な種類があり、症状も異なってきます。

当院では、そういった認知症の診断に有用な核医学検査(RI検査)を行っています。RI検査では、脳の血流低下部位などを画像評価することができ、低下の度合いや低下の場所により、認知症の有無や種類の診断を行うことができます。

RI検査にも様々な種類があり、当院で行っている認知症診断に有用な3つの検査についてご紹介します。

・脳血流 SPECT シンチグラフィ

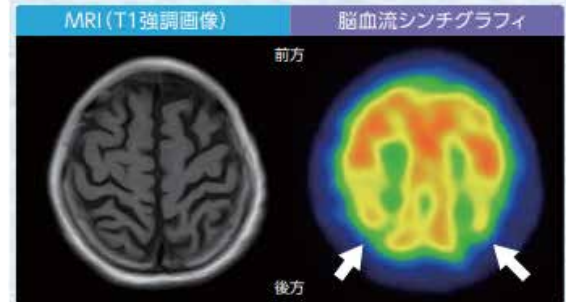
脳血流 SPECT シンチグラフィは、脳の血流量を画像から知ることのできる検査です。CT検査やMRI検査などの脳の形態を見る検査では分からない早期の脳血流障害の検出や、脳の機能評価を行うのに有用な検査です。

認知症診断においては、脳の血流の低下部位により認知症の種類が異なる為、認知症の型の識別にも利用されます。

当院では、画像を視覚的に評価するだけでなく、統計学的手法を用いた解析ソフトである3D-SRTやeZIS(PDRファーマ株式会社製)を用いて画像処理を行っています。

これにより、撮影した画像を解剖学的に標準化し、テンプレートに組み込むことで、半定量的に評価を行うことができます。

● 認知症(アルツハイマー型)の例



左のMRIでは異常はないが、右の脳血流シンチグラフィでは頭頂葉において血流が低下していることがわかる。(白矢印)

・ドパミントランスポーターシンチグラフィ(ダットスキャン)

ダットスキャンは、脳内の黒質線条体ドパミントランスポーターを画像化する検査です。ドパミン神経の変性や脱落の程度を評価でき、これはCT検査やMRI検査、脳血流SPECTシンチグラフィでは評価できないものです。これにより、パーキンソン症候群やレビー小体型認知症の早期診断や鑑別診断に役立ちます。

・MIBG 心筋シンチグラフィ

MIBG心筋シンチグラフィは、心臓を支配している心臓交感神経の障害とその分布を画像から知ることのできる検査です。レビー小体型認知症などの場合、心臓交感神経の脱落を画像が反映し、心臓へのRI製剤の取り込みが減少します。これにより、他の認知症との鑑別に有用な検査となっています。

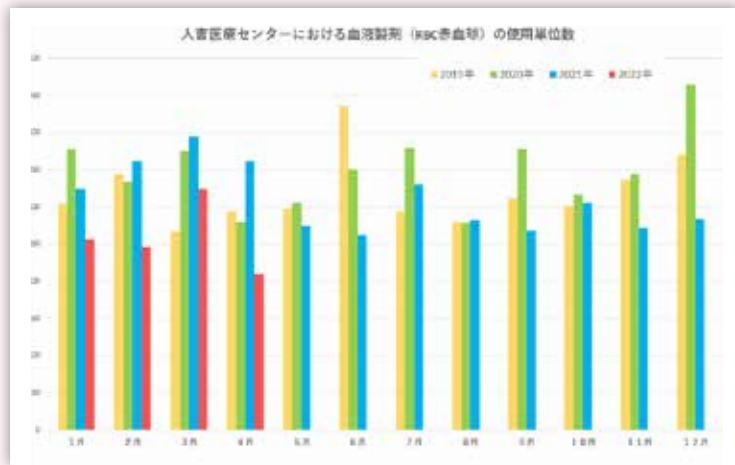
RI検査はCT検査やMRI検査では分からない脳機能評価を行うことができます。認知症診断の1つとして、ぜひご活用下さい。

画像診断センター 中西 節

7月は『愛♡の血液助け合い月間』です。

熊本県赤十字血液センターによると、ゴールデンウィーク以降、医療機関への血液製剤（輸血のための大切な血液）の供給が増える一方で、献血は減少傾向がつづいているそうです。10～30代の献血協力者数はこの10年間で約3割以上減少しており、少子高齢化が進んでいくと血液の安定供給に支障をきたす恐れがあります。

輸血を必要とされる方は時を選ばず、当院でも毎日輸血の治療が行われています。（右グラフ参照）



7月には毎年全国で『愛♡の血液助け合い運動』が展開されます。赤十字血液センターのホームページには、楽しいキャンペーン企画や献血案内・献血バス運行スケジュールなどが分かりやすく掲載されています。私も献血車を利用して献血を続けています。緊急事態宣言が解除され人の移動も少しずつ戻りつつありますので、今まで以上に若い世代をはじめとした献血へのご理解とご協力をお願いできればと思います。



熊本県赤十字血液センターホームページ
<https://www.bs.jrc.or.jp/bc9/kumamoto/index.html> より

臨床検査部 木下 まり

地域の医療を未来へつなぐ～私たちのミッション～ 令和4年度 各部署目標

臨床検査部

1) 臨床検査の質と安全の維持～迅速かつ正確な検査結果報告体制の維持～

- ①検査技術の向上（超音波担当技師の技術の習熟と新たな分野の習得及び新たな技師の育成）
- ②正確な検査を担保する精度管理技術の維持
- ③インシデントレポート5件/月以上（そのうちレベル0報告を2件以上含む）

2) 患者・職員の満足度の向上

- ①待ち時間満足度の維持（患者へ迅速かつ正確な検査結果報告を行い、R2年度と同等（やや満足以上

45.46%の待ち時間満足度を維持する)

- ②業務の分担・連携・協力により超過勤務40時間/月を超えるスタッフを出さない
- ③部署内のストレスチェック集団分析にて全国平均並みよりよい結果を維持する

3) 業務改善・拡大

- ①タスクシフト/シェアへの取組み（他職種との連携、検査技術と知識を活かした取組みを行う）
- ②効果的・収益性を意識した院内検査項目の見直しを行う

医療安全管理室

安全確保のための体制や活動の周知・徹底を継続して行う～安全な医療を提供するために、医療者間の情報共有を行う～

1) ラウンド・点検による現場の情報収集と実態調査及びフィードバック

- ・全部署のラウンドを行う
- ・推進委員でチーム(誤認防止チーム・転倒転落防止チーム・5S活動チーム)編成し、チームラウンドを実施する

2) 昨年度の部署目標の評価から今年度の部署目標を設定、医療安全対策活動報告・評価を行い、医療安全対策の定着を図る

各部署の推進委員目標が定着するように、啓蒙および遂行する

- ・中間評価・活動報告(写真など使用し活動状況を報告)

- ・最終評価・活動報告(写真など使用し活動状況を報告)…今年度の目標が遂行しないインシデントが発生した場合は、RCA分析を行い、改善対策を行う

3) インシデント「レベル0報告」(発見・未然防止事例)を改善に活かす

透明性(報告・連絡・相談)のある医療現場、安全文化の醸成…インシデント・アクシデント報告体制を維持し、レベル0報告事例の中から改善に取り組んだ事例を各部署1事例報告する

- 報告枚数 1260枚以上(病床数 252床の5倍)
- レベル0(発見・未然防止)報告枚数 380枚(総報告枚数の30.0%)
- レベル0報告から10事例改善に活かす(レベル0報告から改善に活かされる事例は全レベル0報告件数の3～5%程度である)

看護部

1. 質の高い看護の提供に努める

- ・患者満足度の向上: 外来待ち時間短縮に向けた取り組み
- ・褥瘡発生率低下に向けた取り組み(発生率 2.3%以下)
- ・医療安全文化の醸成: 転倒転落予防に努め、身体拘束カンファレンス充実・アセスメントと対応の評価、倫理カンファレンスの充実
- ・院内救急対応システム(RRS)の確立
- ・退院支援強化

2. 働きやすい職場環境の提供

- ・業務改善に努め超過勤務の削減(30時間/月以内)
- ・年次有給休暇取得日を一人7日以上とする(計画的年次有給休暇取得を目指す)

3. 健全な経営に努める

- ・入院調整及びDPC入院期間Ⅲ以内での退院調整(DPC入院期間Ⅲ 30%以内)
- ・外来における入院時支援(500件/年)、入退院支援(2,000件/年)

4. 人材育成に努める

- ・クリニカルラダーの申請を行う
- ・専門分野・小児医療など看護の質向上に努める
- ・JCHO学会への参加・発表
- ・災害対策…病棟配置場所の統一、応援ナースの業務整理
- ・救急教育

5. 予防医療の推進

- ・病棟におけるACPの推進
- ・認定活動の充実・実施
- ・在宅医療の充実

訪問看護ステーション

1. 地域の関連機関及び院内の関連部署と連携し在宅医療を支援する

- 1) 質の高い在宅ケアの提供を行う
- 2) ACP/在宅看取りの普及啓発活動への参加
- 3) 災害対策の構築

2. 働きやすい職場環境をつくる

- 1) 超過勤務を削減する
- 2) 年次有給休暇の取得率を上げる
- 3) 訪問看護師としてのスキルアップを支援する

感染管理室

1. 感染対策向上加算1および指導強化加算取得
2. 手指衛生遵守率向上・个人防护具着脱訓練の実施
3. 院内感染対策研修全職員参加

五木村診療所

1. いつでも相談できる診療所
2. 地域医療-病院、行政、施設との連携強化-

言語聴覚士のお仕事紹介

言語聴覚士 (Speech Therapist:ST) は『話す』『聞く』『食べる』といった機能に課題を抱える人に対して専門的な評価やリハビリなどを行うことにより、社会復帰や自分らしい生活ができるよう支援するリハビリ職です。『話す』『聞く』などコミュニケーションに関わる問題は脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。また、『食べる』という人間の生命維持に関わる問題も様々な病気 (脳卒中など) や加齢による摂食・嚥下障害で特に高齢者に多く現れます。言語聴覚士はこのような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。言語聴覚士は1997年に国家資格として制定された比較的新しい職種です。全国での有資格者数は2022年3月には約3万8千人となり、医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動しています。ちなみに人吉球磨では人吉市7施設、球磨郡2施設に計18名の言語聴覚士が在籍しています。当院は言語聴覚士3名が在籍しており、主に脳卒中、誤嚥性肺炎 (嚥下障害による肺炎) の患者さんにリハビリを実施しています。特に嚥下障害の患者さんは栄養管理が難しく、生命維持・治療効果にも関わるため医師・看護師・管理栄養士など多職種で話し合いを重ねています。1日3回の食事は、食べる方法 (何をどのように食べるか) も重要であり、介助が必要な患者さんもいるため、介助者となるスタッフの知識・技術向上のために研修会も開催し、病院スタッフ全員で安全に食事摂取できる環境作りを行っています。



リハビリテーションセンター 言語聴覚士 吉本 珠実

特別臨床実習 (地域医療)

今回、地域医療実習として人吉医療センターにて3週間実習させていただきました。総合診療科を中心に、院内では救急外来、小児科、外科、整形外科、予防医療センター、院外では五木村診療所、訪問診療・看護、人吉市3歳6か月健診にて実習させていただきました。

コロナウイルスの影響もあり実習で患者さんと関わりを持つ機会が少なかった自分にとって、特に総合診療科や五木村診療所での回診や外来診察を通して患者さんとコミュニケーションを取る機会を頂いたことはとても新鮮な体験で、患者さんの訴えをしっかりと聞く大切さを改めて学ぶことができました。大学病院では直接経験できない採血などの手技やカルテ記載を行うこともでき、大変貴重な経験となりました。また、すべての実習先で患者さんの病気の治療はもちろん、患者さんの家族や住居、職業などの社会的背景まで考えた診療が行われてい

ることを目にするのができ、将来医師として働く上で忘れてはならないと実感できました。



今回の実習を通し、自分の医学の知識や診察能力、コミュニケーション力の未熟さを痛感し、将来患者さんを第一に考えた医療を行うことができるよう勉強を続けたいと感じました。田浦先生をはじめ総合診療科の先生方、初期研修医の先生方、多くの先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。実習中だけでなく実習時間外にもとても優しくいただき、楽しく充実した3週間になりました。心より感謝申し上げます。

熊本大学医学部医学科6年 福田 高大

人吉医療センターにて3週間の地域医療実習をさせていただきました。3年生時に早期診療体験でも1週間実習をさせていただいたこともあり、今回2度目の実習となりました。

前回、実習に訪れたときは、水害が起こる前でした。そのため、今回人吉に来て市街地の様子が様変わりしていることにとても驚きました。

総合診療科で主に実習させていただきましたが、カルテの書き方、鑑別疾患の挙げ方、治療方針へのアセスメントの仕方を丁寧に教えていただきました。また、受け持ち患者さんも持たせていただき、患者さんとの関わり方を実践を通して身に付けることができました。

五木村診療所や、訪問看護、往診、3歳児検診など大

学ではできない実習も用意してくださり、とても貴重な体験をさせていただきました。

すべての実習を通して、人吉では、患者さんと看護師さん、医師がとても仲良く、皆さんが患者さんの話に耳を傾け、対話を積極的に行っていたのがとても印象的でした。

ヒポクラテスの言葉に「医師には三つの武器がある。第一に言葉、第二に薬草、第三にメスである。」という言葉があります。今回の実習を通して、普段後回しになりがちで、言葉の大切さを改めて知ることができました。

いろいろな方々のご指導、ご鞭撻によりとても充実した実習を送ることができました。この場をお借りして、方々に心より感謝申し上げます。

熊本大学医学部医学科6年 成富 未果

熱中症とは

「熱中症」とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、循環調節や体温調節などの体内の重要な調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称です。

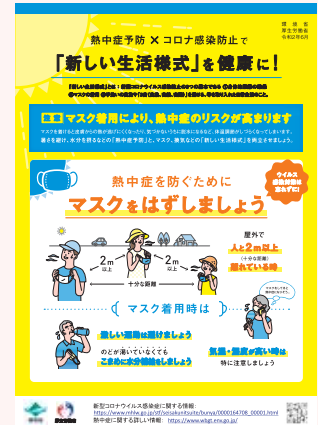
症状として、めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温などが現われます。

《熱中症者への対応》

熱中症が疑われる人を見かけた場合の対応手順を紹介します。その人の状態やその場の環境によりますが、まず下記の手順で応急処置を行きましょう。

- ①意識を確認する。意識がはっきりしていなければただちに救急隊を要請
- ②意識がはっきりしている場合は

- ・涼しい場所（エアコンの効いた室内、風通しの良い日陰など）へ避難させる
- ・衣服をゆるめ、からだを冷やす（特に首の回り、脇の下、足の付け根など）
- ・水分・塩分、経口補水液（水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの）などを補給する自力で水分がとれなければ、ただちに救急隊を要請



～熱中症予防のために～

- こまめに水分を補給してください
室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液などを補給しましょう。
- 暑さを避けてください
できるだけ風通しのよい日陰など、涼しい場所で過ごしましょう。

以下の症状にお気をつけください。

<熱中症の症状>

めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う

<重傷になると>

返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

～熱中症が疑われる人を見かけたら～

<涼しい場所へ>

風通しのよい日陰など、涼しい場所へ

<からだを冷やす>

衣服をゆるめ、からだを冷やす（首回り、脇の下、足の付け根など）

<水分補給>

水分・塩分、経口補水液などを補給する

【自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を！】

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送の必要性や、場合によっては死亡することもあります。

在宅医療現場における新型コロナ対応状況について

全国的に新型コロナウイルス感染者数が緩やかに減少傾向にあり、様々な規制緩和が少しずつ進んでおります。今回は、訪問看護ステーションの立場から在宅医療現場における新型コロナ対応状況の現状について掲載をさせていただきます。

球磨地域在宅医療サポートセンター

人吉医療センター 医療福祉連携室 田頭 隼人

コロナ感染が拡大してきた中で、最近では軽症な方の在宅療養がより身近になってきました。訪問看護においても、ご利用者様のコロナ感染対応に追われるなど、以前の訪問のスタイルとは随分様変わりしたように感じます。当ステーションでは実際に感染したご利用者様の対応例は多くないのですが、在宅での対応の難しさを感じた事例でしたので、ご紹介させていただきます。

（在宅療養中に感染されたご利用者様のケース）

ご夫婦で生活しておられ自由に外出することは困難な方が、夜間に自宅で転倒し、起きられなくなったと連絡

あり訪問。発熱あり検査後コロナ陽性と判明し救急搬送入院となった。子供さんは遠方にお住まいだったため急な対応が難しく、だれが入院までの準備や付き添いなどを対応するのか。残されたご主人の食事や排泄などの問題も出てきた。多数の人の出入りは避け、当初対応したスタッフが継続して対応した。今まで利用してきた介護サービスを受けることができなくなった時に、誰がどのような代替への支援をしていくのかを日頃から想定しておくことも必要だと感じた。不安への対応も重要で、適宜声掛けや説明など継続して実施。顔見知りのスタッフが対応することで入院までの支援がスムーズに行えたのではないと思う。感染拡大に伴い家庭での感染対策が重要であり、継続した感染対策の啓発が必要だと思っています。当ステーションでは地域の老人会などに出向き、手洗いの方法や正しいマスク着用の方法など、在宅で活用できるような方法をお伝えする活動を行っています。間違った方法や知識で感染の拡大につながらないように、今後も地域での活動を継続していければと考えています。

訪問看護ステーションなないろ 菘星 茂美

ロックスインデックス (LOX-index) 検査

予防医療センターでは、動脈硬化の進行から将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症までを予測できるロックスインデックス (LOX-index) 検査を健診・人間ドックのオプション検査として、また、単独受診することができます。

動脈硬化は、自覚症状がないままに進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞といった疾病を発症してしまいます。ロックスインデックス検査は、動脈硬化の引き金となっている酸化変性 LDL・sLOX-1 という2つの物質の量を測定する検査です。ロックスインデックス検査では、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを採血のみで予測できます。脳梗塞・心筋梗塞のリスクがあれば早めの予防対策を取りリスクを減らしていくことができます。

- ◆ 採血だけの簡単な検査
- ◆ 健診・人間ドックのオプション検査
または単独で受診可能
- ◆ 検査費用：13,200円 (税込み)

お問い合わせ：予防医療センター
Tel (0966) 22-7070

縫合勉強会

先日、研修医と診療看護師を対象に開催された院内縫合勉強会に参加しました。外科系の先生方の指導のもと、両手結びと器械結びについて勉強しました。両手結びは、手術などでも頻用される基本的な手技です。説明動画を見た後、結び目が分かりやすいよう2色に分かれた紐を使って、男結びと女結びを練習しました。指の使い方、左右の手の動かし方が難しく、何度も練習して何とか出来るようになりました。

器械結びは、糸つき針、持針器、鉗子を使って、縫合などで使用する手技です。皮膚のシミュレーターを使って真皮縫合の練習をしました。持針器の使い方が難しく、綺麗に確実に縫合するのは大変でした。

先生方にコツやポイントを教えていただき、今回の勉強会でだいぶ上達しました。これからも繰り返し練習して、実際の現場で活かせるようにしていきたいです。

臨床研修医 村上 隼人



新任紹介



増田 眞子 (協力型臨床研修医)

趣味：ラジオを聴く (「#むかひの喋り方」が最近の推しです!)、大学時代はトライアスロンをしていました。コロナの影響で大会が無く、もう2年以上できていませんが…体を動かすことは好きです!

モットー：謙虚さを忘れない

自分の性格：どんな環境でも割とすぐに馴染めるかなと思います。ものを無くしやすいのが直したいところ。

自分のコマーシャル：この度、済生会熊本病院から協力型として小児科研修でお世話になります、研修医の増田眞子と申します。出身が人吉であり、今回このような形で人吉の医療に貢献できずことを大変うれしく思います。人吉は自然豊かで人も優しく、温泉・食・お酒など魅力がたくさんあり、私自身も大好きな街なので、ここで働けることをとても楽しみにしております。1ヵ月という非常に短い期間ではありますが、一生懸命がんばりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



宮原 ちとせ (予防医療センター・事務助手)

趣味：お菓子作り、ドライブ

好きな言葉：ありがとう

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：初めての事だらけで不安もありますが、日々成長していけるよう頑張ります。よろしくお願いします。



前田 麗奈 (外来・医療クラーク)

趣味：体を動かすこと

モットー：人生は一度きり

自分の性格：なんでも前向きに考えられるところ

自分のコマーシャル：初めての職種でたくさんご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

ラフティング部再開のお知らせ



6月4日(土)人吉医療センター ラフティング部は約3年ぶりにラフティングを再開しました。久しぶりの活動となる今回は、あいにく小雨の降るなか中神町の紅取橋をスタートしゴールの球磨村の一勝地まで、比較的穏やかなコースを途中で滝行したり岩から飛び込んだりと、アクティブに楽しんで来ました。6月の上旬という事で川の水も冷たいだろうと思っておりましたが、一度川の中に落ちてしまえば慣れてしまい、また雨も止んだので暑くもなく寒くもなく、意外に快適な環境でした。これからラフティングを体験してみたいスタッフの方はいつでも企画するので声をかけてください。

ラフティング部 湊津 育宏



手銭 寛子 (5階病棟・療養介助員)

趣味：バレーボール、手芸

好きな言葉：初心忘るべからず

自分の性格：スーパーポジティブ

自分のコマーシャル：いつも笑顔で日々成長できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

